経済政策論 II

科目ナンバリング　ECP-206
選択　　2単位

冨田　秀昭

1. 授業の概要（ねらい）

私たちは、政府、日本銀行により実施されている経済政策により、さまざまな影響を受けて生活しています。すぐに思い浮かぶ代表的な経済政策はマクロの財政金融政策ですが、それ以外にも多様な経済政策があります。ミクロの資源配分などに影響を及ぼす最低賃金制度、保護貿易政策、産業政策をはじめとする市場への政府介入、外部性を内部化する政策対応など、さまざまなケースが考えられます。

「経済政策論」の講義では、経済政策を評価するための基礎理論を学んだ上で、日本で実施されている経済政策を評価できるようになることを目指します。

「経済政策論Ⅱ」では、金融市場における情報の経済学と経済政策、IS-LMモデルを用いたマクロの財政金融政策、財政赤字問題などの評価が可能になることを目標とします。

2. 授業の到達目標

（1）ミクロ経済学とマクロ経済学の考え方を用いて、経済政策を評価するための基礎理論を学びます。

（2）習得した経済政策の基礎理論により、日本で実際に採用されている経済政策を評価できるようになることを目指します。

3. 成績評価の方法および基準

（1）期末試験60%をベースとして、それまでの講義で学んだ重要な概念や用語の理解を問う小テストないし課題提出40%（計4回、不定期）により総合的に評価します。

（2）合格ラインにわずかに満たない場合で、出席状況のほか日頃の受講姿勢を勘案して合格とすることもあるので、まじめに取り組んでください。

4. 教科書・参考文献

教科書

岩田規久男・飯田泰之　『ゼミナール　経済政策入門』
日本経済新聞出版社、2006年

5. 準備学修の内容

（1）講義前に教科書の関連部分を熟読し、疑問点などをチェックして講義に臨んでください。

（2）原則として講義内容の要点を記載したレジュメを毎回配付するほか、必要に応じて配付する資料に基づいて、現実の経済政策を考える際の経済学的考え方を丁寧に解説することを心掛けるつもりです。帰宅してから、その日の講義内容を見直すなど、復習に重点を置いて取り組んでください。

（3）配付するレジュメは空欄穴埋め方式とするので、講義を聴きながら該当箇所に用語を記入していくこと（レジュメの完成版は次回講義で配付する）。

6. その他履修上の注意事項

（1）「入門ミクロ経済学」および「入門マクロ経済学」を履修済みであることが望ましい。

（2）経済政策を考える際の経済学的考え方を体系立てて理解するため、「経済政策論Ⅰ」からの連続受講を希望します。

（3）講義中の私語など、他の受講生に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

【第1回】　＜ガイダンス＞
授業目的、授業方法、成績評価、準備学修および授業内容について
【第2回】　＜講義＞　情報の経済学と経済政策（1）：不完全情報下の期待効用
【第3回】　＜講義＞　情報の経済学と経済政策（2）：危険回避と保険
【第4回】　＜講義＞　情報の経済学と経済政策（3）：情報の非対称性
【第5回】　＜講義＞　情報の経済学と経済政策（4）：金融市場と情報の経済学
【第6回】　＜講義＞（オンライン授業）　財政金融政策（1）：IS曲線の導出
【第7回】　＜講義＞　財政金融政策（2）：LM曲線の導出
【第8回】　＜講義＞　財政金融政策（3）：IS-LMモデルと財政政策
【第9回】　＜講義＞　財政金融政策（4）：財政政策の有効性
【第10回】　＜講義＞　財政金融政策（5）：IS-LMモデルと金融政策
【第11回】　＜講義＞　財政金融政策（6）：金融政策の有効性
【第12回】　＜講義＞　財政赤字問題（1）：財政赤字の現況
【第13回】　＜講義＞　財政赤字問題（2）：財政赤字発生の原因
【第14回】　＜講義＞　財政赤字問題（3）：財政破綻の可能性
【第15回】　＜まとめ＞
1）講義の総括
2）期末試験